

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あやとり)

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	令和2年9月10日	開設年月日	平成15年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内や近隣の祭り、催し物などやその方にとって馴染みの場所に出掛ける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に2つのグループホームがある利点を活かし、お互いに訪問し合う事で、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないよう工夫をしています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和2年10月22日	評価結果決定日	令和2年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人のグループホーム「おりづる」を休止するため、5月より利用者・職員が改装した「くさぶえ」に移り、「あやとり」と共に2ユニットとして稼働しています。それぞれの思いを込めた新しい理念を掲げ「笑顔あふれる我が家」でその人らしく暮らしていけるよう充実したケアでサポートしています。今年は新型コロナウイルス感染症により外部との交流ができない状況ですが、事業所内での芋煮会や畑の収穫、理学療法士によるリハビリ体操などコロナに負けない活動をしています。また法人全体として心強いバックアップがあり、防災や福祉、就業環境など利用者・家族・職員にとって安心できる支援体制を整えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でお一人お一人がその方らしい生活を続ける事を支える為、職員の思いを取りまとめ、事業所内に理念を掲示している。又、ネームプレートにも入れており、時折確認しながら各自意識付けを行っている。スタッフ会議などでも理念に添ったケアが出来ているか確認している。	5月より中道の「おりづる」から改装した「くさぶえ」に利用者・職員を迎え「あやとり」と共に2ユニットとして稼働している。それぞれの思いから理念も新たにして「笑顔あふれる我が家」を基にその人らしさを大事にした取り組みを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やコミュニティ(七福会)に参加したり、地元の個人宅への雛人形飾りを見に伺った。地元婦人会の方々に来訪頂き、郷土料理を一緒に作った。又、定期的に地域の方にお抹茶の会を開催して頂いている。外出の際はボランティアとして同行して頂いている。	地域から様々な行事案内は来ているが新型コロナウイルス感染症による中止や法人全体で外部との接触を禁止としているため通常の交流はまだできていない。通院など個別的な外出は徐々に緩和されており、法人の指示に従っての活動となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、事例紹介や生活の様子を写真で見ながら説明を加えることで、認知症の理解や支援方法をお伝えしている。また、火災訓練にも参加頂き、実際認知症の方への声がけと誘導方法を体験して頂いている。昨年度は認知症サポーター研修を推進委員、御家族の方に向けて行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動状況・事故報告・ユニット毎のエピソードなどを報告している。また、スライドにて日常の様子を見ていただき、事業所の理解を得られるように努めている。地域からの情報は外出の機会となり、市からの保険情報については、知識を得る機会となっており、そこでの意見、情報交換等をサービスの向上に活かしている	会議はコロナ禍で中止の時はその案内と書面で状況報告をしていたが7月より再開されている。事業所からは現況や取り組みについて報告し、また市担当者や地域交流からの意見交換で情報を得ながら話し合いサービスに役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議では市職員から介護保険関連情報として、市や他事業所の情報を得ている。また、入居者に関する相談や制度上の手続きなど情報や助言を頂いている。今年度はコロナウイルスによる推進会議の進め方についての助言も頂いた。	市担当者とは良好な関係を築き、運営推進会議にも参加を得て実情に理解をもらっている。コロナ禍で相談等のやりとりは電話で行い適切なアドバイスを運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人職員を対象とした身体拘束防止についての学習会に参加し理解を深めている。事業所の玄関には鍵をかけず、常に利用者一人ひとりの行動を把握し、声かけや見守りを行なっている。GH内で身体拘束適正化委員会を設け、3ヶ月毎に会議を開催している。現状について話し合い、内容についてはスタッフ会議で全職員に周知徹底している。</p>	<p>定期的に身体拘束適正化委員会で事例をあげて研修を行い職員への周知を図ると共に、法人全体や事業所内、また事故検討会議などで拘束をしないケアについて学んでいる。また接遇研修やスタッフ会議等で方向性を一つにして抑制しない対応に努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「身体拘束をしないケアの実践」と同様、法人職員を対象とした学習会に参加し、理解を深めている。不適切なケアが行われていないか、些細なことも会議等で繰り返し話し合い、防止に努めている。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人職員を対象とした、権利擁護やコンプライアンスについての学習会に参加し理解を深めている。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについては詳しく話し、同意を得ている。入院に伴う退去についてや将来的な内容についても触れ、不安や疑問に答えられるようにしている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人では3年に一度、アンケート調査を実施し、ご利用者や御家族の意見を頂いている。又、事業所玄関には「ご意見箱」を設置している。家族の来訪時や電話で頂いた意見等をスタッフ会議で検討し運営に反映させている。利用者の要望についても、日頃の会話の中から叶えられるよう心がけている。</p>	<p>法人アンケートの結果は対応策を示して家族等に送付し、玄関での掲示や運営推進会議で公表している。家族等とは電話でコミュニケーションを図りながら意見をサービスに繋げ、広報誌を送る際は担当者からの近況報告も入れている。また利用者の要望はその方だけの「特別な日」などで応えている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議にて事業所の決定事項を伝達し、職員の意見も聞いている。必要時には管理運営会議に反映する様にしている。法人への意見や要望は、事業所から選出された親睦委員が委員会へ持ちよる事で、職員の意見、要望が反映されている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人は、人事考課システムを使用し、少なくとも年2回考課を実施することで、職員個々の状況を把握している。安全衛生委員会による労働環境の把握や是正、産業カウンセラーによる面接制度の採用により、メンタルヘルスへの対応についても配慮している。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では教育委員会が主となり、階層別研修制度を活用し、職員が働きながら学べるよう工夫している。今年度はコロナウイルス感染拡大予防の為外部研修への参加は行っていない。法人研修も密を避け、各事業所毎に伝達研修で内容を共有している。</p>	<p>コロナ禍で法人研修は伝達や教育委員会の資料・DVDなどを基に所内で行い、感染症対策は県の動画なども活用して予防や対応策を学んでいる。職員は各委員会に所属して活動し事業所全体のレベルアップに努め、資格取得にむけての研鑽も積んでいる。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>置賜GH協議会の定例会議に参加し、事業所の見直しや視野の拡大に繋げている。また、置賜GH協議会主催の研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度は、コロナウイルス感染拡大予防の為、外部との交流はない。</p>	<p>通常であれば県、置賜支部グループホーム連絡協議会の会議や研修に参加して交流し情報や意見交換の場に行っているが、コロナ禍にあってメールで情報をもらいサービスの質向上を図っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前訪問や実調、ホーム内見学等で本人の心配事や不安な面を理解するよう工夫している。家族から入居前にセンター方式シートに記入していただくことで、利用者の把握や信頼関係の構築に繋いでいけるようにしている。さらに自宅で使用していた馴染みの物を持参して頂き、安心出来るようにしている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者と家族との関係性も踏まえ、要望や困っていることを把握し、信頼関係を築けるように努めている。来訪時や電話などでも話せる機会を作っている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の意向を確認し、どのような支援が必要なのかを検討し、支援に繋げている。又、その内容については関係する職員で情報共有している。法人の総合相談センターとも連携し、状態に応じた支援に努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や掃除、洗濯物干しや畳み方、畑仕事等の作業と一緒にしている。昔ながらの知恵を教えて頂き、馴染みの関係と信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の近況報告と家族来訪時及び電話連絡等で状態を報告し、家族と情報共有をしている。利用者の思いを家族に理解いただき、各担当が家族と一緒に考え、特別な日を企画し実施した。今年度はコロナウイルスの為、面会が出来ない時はスカイプを利用しリモート面会を行った。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は住み慣れた地域のスーパーや観光地、行事に出掛け地域の方との交流を図っている。馴染みの床屋に出掛けている方もいる。今年度はコロナウイルスの影響で外出が出来ない状況であるが、これまでの暮らしの関係を継続出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切に支援している。利用者同士馴染みの関係が出来ており、お互いがいることで安心され、支え合える関係となっている。時にはトラブルになることもあるが、職員が間に入り、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年度、1ユニットの入居者が法人内の施設に移動となっている。移動後も本人の様子を伺ったり、家族から話しを聞き、相談に応じた。グループホームに戻りたいという家族の要望があり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中の会話やエピソードを記録に残し、職員間で共有し希望や意向の把握に努めている。家族からも情報を頂くようにしている。又、思いや意向を盛り込んだ企画として、利用者のやりたい事や行きたい所を叶える「特別な日」を設けている。	お茶の時間や入浴時など関わりの中でくみ取った思いや意向は言動も交えて記録し、出勤時に目を通して思いに寄り添ったケアを心掛けている。担当者は家族等とも相談しながら利用者のやりたい事を叶える「特別な日」を企画し笑顔の一日となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から得た情報は個人記録にまとめ情報を共有している。今まで暮らしてきた日々の生活から本人を理解し、不安なく生活出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が持つ力を十分に発揮出来る様、支援している。関わりや声がけを工夫し、個人の生活リズムを尊重している。体調の変化により食事、水分が進まない時はチェック表を用いて状況把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向に添って担当者・計画作成者がケアプランを作成している。理学療法士より個別機能訓練計画書を作成してもらい、リハビリが出来るようにしている。カンファレンスでは、家族にも参加いただき、意見をもらっている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価や見直しを行っている。状態に変化があった時は都度、見直しをしている。	「その人らしさを大事に」をプランの軸にして理学療法士によるリハビリ計画(評価は1ヶ月)も取り入れながら本人・家族・担当者の思いに沿った介護計画となっている。3ヶ月毎に評価して見直しに繋げ、家族等とも話し合い理解をもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実施状況等、エピソードを交え毎日記録に残している。出勤時は各自記録やミーティングノートに目を通し、情報収集を行っている。職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH入居後も、一人ひとりの暮らしを支える地域資源を活用している。かかりつけ医を継続し、受診は基本家族の付き添いを依頼している。例年度は、地域の活動に参加したり、ボランティアの協力を頂きながら外出も行っているが、今年度はコロナウイルス感染予防の為行っていない。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は日頃の様子を記入した連絡表を持参し、かかりつけ医には受診結果や指示を記入して頂いている。基本的には家族同行受診としているが、不可能な場合は職員が同行する支援も行っている。又、訪問診療を依頼しているケースもあり、複数の医療機関との関係を密にしている。	利用者一人ひとりのかかりつけ医に家族同行で受診している。他科受診に際しても連絡表を持参し結果について医師からのコメントをもらい情報の共有が図られている。外来への通院が困難な利用者は訪問診療を受け、また訪問看護師が週一回全員の健康観察を行い、変化時には速やかに対応し安心な体制が図られている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携体制を行っており、週1回の訪問時に日頃の健康管理や、相談、助言をもらっている。状態に変化があった時は都度、状態を報告し受診に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、利用者の支援に必要な情報を医療機関に提供している。入院中は家族に状態を聞いて情報を得ている。早期に退院できるように、病院関係者には家族と一緒に面談をさせて頂いている。利用者が安心して治療出来るように支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「重度化した場合の指針」についてご家族に説明し同意書を頂いている。、重度化した場合には、ご家族や主治医に相談し「看取り同意書」の取り交わしを行なっている。職員間で看取りについて話し合い、研修も行っている。緊急時の訓練も行い、チームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期の取り組みは、重度化した場合の指針、手順書等に基づき今までの経験も含め職員は一人ひとりの力量を高めている。チームで支えていくという覚悟を持って家族・医療機関と協力して希望に沿った支援を行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間訓練計画書をたて、毎月の担当者が主となって訓練を実施している。マニュアルを確認しながら、反省点を共有し改善している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人主導で年2回の火災訓練を実施している。事業所独自でも1～2ヶ月毎に昼夜を想定した訓練を行い、改善点など見直しに繋げている。地元の2地区と災害協定を結び、協力体制を築いている。運営推進会議の際、委員の方に利用者の誘導を実践体験して頂いた。</p>	<p>災害対策マニュアルを整備し、毎月「訓練の日」を設け、職員は常に危機意識を持って取り組んでいる。水害に関するハザードマップ等も掲示し、地域とは災害協定を結び互いの協力体制の構築が図られている。各居室入り口には入居者の身体状況（車いす・自立歩行）や避難誘導方法を記入したカードを掲示し有事に備え、法人と一体となり取り組んでいる。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は声かけや声のトーンに留意し、利用者のプライバシーを損ねないような対応を心がけている。声かけや対応で気づいた事は、事例を上げながら話し合い、一人ひとりに合わせた関わりを心がけている。</p>	<p>利用者一人ひとりのプライドや羞恥心に配慮して排泄や入浴時の声かけには注意している。「帰りたい」などと落ち着かないときは離れたところで話を聞きそっと寄り添う姿勢でその人らしさを大事にする理念のもと支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では利用者が主体となり、本人の思いや願いを表現出来る様に傾聴している。思いや表現が出来ない方には、今までの生活の中から思いを汲み取り支援している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、特に時間を区切らず利用者の思いやペース、その日の希望を尊重している。体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。利用者の生きがいや楽しみを情報共有しながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髪をくしで整え、髭を剃る際、その人のこだわりやおしゃれな部分を大切にしている。出来ない所は本人が満足いくまで手伝っている。いつまでも、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜や季節に合った旬の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛り付け、片付けを行っている。希望や好みを伺い、苦手な物は代替品を提供している。誕生日には大好きな物を取り入れている。職員も同じテーブル楽しく食事している。	食事はユニット毎に手作り食とミール食に分かれた対応を取っている。畑で採れた野菜の利用や時間に余裕ができたところは手作りおやつを充実させて利用者の要望に応じている。誕生日の希望食や行事食などバラエティに富み楽しみなものになっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合った食事の提供を心掛けている。刻み食やミキサー食等、体調や摂取状況に応じて都度、食事形態を工夫している。水分が摂れない方にはゼリーで対応したり、チェック表を用いて状態把握に努めている。栄養バランスにも気を配りながら献立を作成している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアの声掛けや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔を心掛けている。週2回、義歯洗浄剤を用いて洗浄もしている。また、ガーゼでの拭き取りの方もおり、個々に合わせた口腔ケアを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりに合わせたトイレ誘導をしている。入所時はおむつ使用だった方が自力でトイレに行かれるようになってきている。また、過剰な介助を控え、自尊心や羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	トイレ誘導者介助の手順、オムツ交換時の手順に沿って職員は配慮すべき基礎を学び、一人ひとりの排泄パターンをチェックして過剰な介助にならないように支援しており、結果良い方向に改善している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多い物や乳製品、オリゴ糖などを使用し便秘の予防に努めている。下剤については、排泄チェックを活用し便性を確認しながら過剰投与にならないように管理している。医療連携看護師の助言をいただき、腹部マッサージを行う等、個々に応じた予防に取り組んでいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望する時間帯や体調に応じて入浴が出来るように支援している。入浴を拒む時には利用者の意思を尊重し、時間を変えて誘う等の対応をしている。入浴が出来ない場合には清拭を実施している。	2ユニットとも機械浴になっている。利用者の習慣やその日の気分等を考慮して特に曜日や時間を決めずに入浴している。拒否のある方には誘い方に工夫し清潔の維持に努めている。入浴時間は利用者との会話も弾み本音が聞ける場となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活のペースや体調に合わせてながら休息の声かけを行っている。日中は活動を取り入れ、安心して穏やかな日常が送られるよう配慮している。不安がみられた時は、フロアで落ち着くまで一緒に過ごす等の対応をしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用についてはお薬の説明書で確認することを習慣づけている。処方の変更された場合は、受診時連絡表からの医師の指示事項や家族からの情報により確認している。服用後の状態変化について観察し、必要があれば医療連携看護師や医師と連絡を図っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話から情報を収集し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう心掛けている。一人ひとりの生活歴にあった活動や楽しみ、興味のある事を見つけ、自分らしくいられるよう支援している。それぞれの役割も大切にしており、作業の後は感謝の言葉を添えている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出、外泊されている方もいる。現在、コロナウイルス感染予防の為、外出の機会を制限せざるえない状況にある。それでも、天気の良い日は散歩や畑での作業をしながら気分転換を図っている。例年はボランティアの協力を得て、地域の行事やお祭り、季節の花を鑑賞するバスハイクを企画する等の外出支援を行っている。	新型コロナの影響で今までのように地域への外出ができないので、ユニット合同で庭で芋煮会を開催し喜ばれている。7月からは家族との面会が15分出来るようになり利用者・家族等のストレスが改善されている。今後は感染防止に努めバスハイクも順次開催を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方には家族や本人の希望でGHで管理している。個人で所持されている方もおり、希望に応じて使用できる様に支援している。支払いの際も本人に行ってもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来る様に支援している。手紙のやり取りを行っている方はいないが、毎年、家族や友人に年賀状を出している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアからは山や畑の野菜が見え、季節感が感じられるようになっている。テーブル、洗面所には花等を飾り、穏やかな雰囲気作りに努めている。又、職員も環境の一部であることを認識し、音や言動に配慮している。利用者一人ひとりの価値観を大切にしながら、居心地の良い空間づくりに努めている。	対面キッチンのある明るい食堂と、続きの小上がり和室（掘り炬燵がある）があり、換気や温湿度管理もこまめに行い、利用者はそれぞれ和気あいあいと過ごしている。壁面には利用者手作りの作品や写真を掲示し、ソファなど一人の居場所もあり外の景色を眺めるなど自由に過ごせる空間となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を考慮し、静かに過ごしたい方、会話したい方、それぞれが思い思いに過ごせるように配慮している。玄関やフロアにソファを置き、居心地良い居場所作りを工夫している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や家具、日用品、思い出の物などを身の回りに置き、落ち着ける居室づくりをしている。音楽が好きな方にはカセットデッキを置き、テレビを観る習慣がある方にはテレビを設置している。ベットは個々の状態に配慮した配置にし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	リフォームにより全室フローリングになりエアコンも各室に備え付けとなっている。各部屋に色違いのソファがあり、家族が訪れた際の談笑に一役買っている。利用者は使い慣れたものや思い出の写真を飾り、また好きな音楽を聴いたり、その人らしい安心できる居室となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりやすいように名前や案内を明示している。トイレには自力でパット交換が出来るように、定数のパットを置いている。洗面所には個々の洗面道具置き場を設け、自力で身だしなみが整えられるようにしている。			